

# 「未来を創る人材への投資」分科会 ～自ら課題を発見し解決する能力の育成に関する検討部会～

構成メンバー(15者)

(株)学研スタディエ (株)埼玉りそな銀行  
古郡建設(株) (株)STEAM ENGLISH  
(一社)キャリアチャレンジ総合研究所 NPO法人埼玉ハンノウ大学  
(福)平野の里 和光市チームSDGs  
埼玉大学 埼玉大学「科学者の芽」 埼玉大学教育学部附属小学校  
芝浦工業大学  
県教育政策課 県高校教育指導課 県義務教育指導課

# 部会における背景・課題等について

## 【背景】

これからの高校生は、

- ・ 少子化・人口減少等の中において「持続可能な社会の創り手」になることが求められる。
- ・ 将来予測の困難な時代において、自ら主体的に社会に関わり未来を切り拓く力を身に付けることが求められる。
- ・ 成年年齢、選挙権年齢が18歳となり、主権者として必要な資質・能力を身に付けることが求められる。



高等学校の学習指導要領が改訂され、  
令和4年度から「総合的な探究の時間」が導入された。

# 部会における背景・課題等について

## 【課題】

- ・ 県立高校では、大学や民間企業等と連携して探究活動等を実践する際の情報及び好事例が不足している。
- ・ 探究活動では、教員はファシリテーターとしての役割が期待されているもののそのような経験を積む機会が少なく、指導に苦勞している。
- ・ 生徒は、探究活動の課題設定について、どのように取り組めばよいか分からず苦勞している。

※探究活動：探究の過程（①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現）を実践する活動



高校生を対象とした官民連携の  
「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル  
を検討する。

# 「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル

## ①森からはじまる未来をつくる

ねらい 西川林業の振興に向けた探究活動を通じて、「持続可能な社会の創り手」を育成する。

### 課題設定

- ・キックオフ会議
- ・若手林業家による「林業の現状等」の講義

### 情報収集

- ・森林整備体験、建設現場等の視察
- ・フィールドワーク

### 整理・分析

- ・グループワーク等を通じた整理・分析

### まとめ・表現

- ・高校生によるプレゼンテーション
- ・提案採用等について高校へフィードバック  
※森林（林業）ビジネスコンテストへの発展も視野

### 主な官民連携

- ・若手林業家や林業指導員の紹介、体験、視察、フィールドワーク先の提供（NPO・企業等）
- ・課題の分析・数値化に係る指導支援（大学等）
- ・プレゼンテーション等を英語で行う場合の補助や、情報発信（SNS等）の指導支援、探究活動の伴走支援等（NPO・企業等）
- ・森林（林業）ビジネスコンテストの開催（大学・金融機関等）

### 事業効果

- ・地域課題の解決を目指した取組を自ら実践することにより、持続可能な社会についての理解を深め、**学びを社会に生かそうとする態度**を身に付ける。
- ・探究活動を通じて、高校生の**思考力・判断力・表現力**等を高める。
- ・林業に対する理解の促進と環境問題に関する意識の啓発を図ることができる。

# 「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル②～⑤

## ②川をテーマに取り組む 「SDGs × 地域の課題解決」

- ・川をテーマに環境問題等の解決に取り組む探究活動
  - ・フィールドワークによる情報収集や、デザイン思考を活用した整理・分析等の実施
  - ・NPOや大学等による支援
- 環境問題に関する意識の啓発



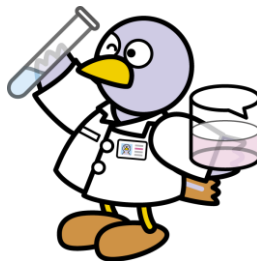
## ③動画制作で学ぶ企業のSDGs活動

- ・SDGsの視点から企業を紹介する動画の制作に取り組む探究活動
  - ・企業へのインタビューやフィールドワークを通じた情報収集等の実施
  - ・大学や企業等による支援
- SDGsに対する理解の促進  
キャリア教育の推進



## ④課題解決への挑戦—大学の技術と設備を利用した 問題点検出と解決法の模索—

- ・課題発見、科学的アプローチを活用した課題の分析・数値化等による課題解決に取り組む探究活動
  - ・大学教授等との協議や大学設備を活用した計測・分析等の実施
  - ・大学や企業等による支援
- 専門的な研究に触れる機会の増加



## ⑤新しい埼玉を作るビジネスを考える

- ・地産地消をテーマに起業に取り組む探究活動
  - ・市場調査や、商品検討、計画作成（資金・製造等）、販売までを実践
  - ・金融機関や企業等による支援
- 基礎的な金融知識の習得  
起業家精神の育成



# 本分野における今後の展開について

- 実践に向けた具体的な検討・調整（対象地域、実施規模、対象学年等）
- 学校と企業、NPO法人、大学等とのマッチング及び連携の深化
- モデルのスキームを活用した探究活動の拡充
- 生徒が主体的に探究課題を発見できる仕組みの検討

